

共生・公正・創造



ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/久保田勉

“異形の労働組合指導者『松崎明』の誤算と蹉跌”

「国鉄改革の裏側」ダイジェスト版 第9回

あの元国鉄労働課長が明かす「国鉄改革の裏側第6弾」が【異形の労働組合指導者「松崎明」の誤算と蹉跌】という本になった。本紙は筆者（宗形明氏）の了解を得て、『JR東日本革マル問題の真相と現状』をダイジェスト版として紹介することとした。



本間雄治・陳述書（2009.3.3東京地裁）その2

- 4 革マル派の党中央と、私たちJR内革マル派の間には一時、緊張関係がありました。…私たちJR内革マル派と、革マル派党中央の間で話合いが持たれたこともありましたが、そのとき、小田裕司氏や石川尚吾氏などはJRマングローブの一員として革マル派党中央と交渉し、私たちはその防衛役として会場の付近をガードしていました。しかし、その後、革マル派党中央との対立の重大な要素であった革マル派党中央によるJR組合員拉致事件について、JR総連が革マル派に対する刑事告訴を取り下げました。さらに、JR総連・東労組に対する捜索があったとき、かつて革マル派党中央を代理していた弁護士が東労組の代理人となっている状況を見て、革マル派党中央との対立は解消されたか、あるいは、そのような対立はもともと存在しないのではないかと思うようになりました。なお、この対立関係にあった頃を含め、松崎明氏は、学習会を年に数度、伊東さつき会館で開いていましたが、その時、「自分は革マル派を作った一人であること。自分の実践を理論家したものが革マル派理論であること。革マル派中央がおかしくなっていて、革マル派理論を正当に受け継ぎ新たな革命党を建設することが必要であること。そのための労働運動場面における実践が必要であること」などを語っていました。…
- 5 私は、松崎氏について疑問を抱くようになった契機が2002年7月の東労組大会後の出来事でした。…本部役員への歓迎迎いがホテル・エドモントで開かれる1時間前に、私と石川副委員長（当時）、角岸委員長（当時）は、松崎氏によって同ホテルに呼ばれ、そこで役員の変更を言い渡されたのです。嶋田副委員長の委員長代行を外し、石川副委員長が担当する、阿部組織研修局長を外し、本間が組織部長をするというものでした。中央執行委員会で何の役職も持たない松崎氏が中央執行委員会の担務変更を指示したのです。…本部事務所内では、嶋田副委員長と阿部組織研修局長に対する無視や、仕事を与えないなどの態度が明らかになっていきました。職場では、嶋田・阿部を支持する発言をしようものなら徹底的に追及され、任にあらずとして一方的に組合の役職を剥奪されました。…
- 6 金銭的な側面でも松崎氏の絶対性は様々な方面で現われています。例えば、さつき企画という会社は旧動労等で解雇された人たちの再就職先という目的で設立されたのですが、松崎氏の息子でJRとは何の関係もない篤氏が同社の社長となったのです。…また、鉄道福祉事業協会というJR総連の関連団体がありますが、この組織が各所に保養所を持っているということは、東労組の役員をしていた私でも知りませんでした。…松崎明氏とその取り巻きだけがここを利用していたのです。…松崎氏が組合財産を自由に利用していたことは、松崎氏だけが利用する車（ボルボやベンツなど）の費用が約4000万円にのぼることや、ボディガードと言われる人々を総務の費用で負担していることなどにも現われています。このような点を含め、『週刊現代』で私の発言として収録されている内容はいずれも真実です。

【異形の労働組合指導者「松崎明」の誤算と蹉跌（高木書房）P.96～P.99】